

新商品先物取引サービス「ウィンザープラス」に 日立エコロジーサーバ「HA8000-esシリーズ」を採用。 エコロジー対応と金融システムに不可欠な信頼性を両立

現代のIT基盤において、大きな課題となっているのがシステムの省電力化だ。IT機器の電力消費量や発熱量は年々上昇しており、電力・空調コストの増加や、環境負荷増大などの問題につながっている。商品先物取引サービスを提供するフジフューチャーズ株式会社（以下、フジフューチャーズ）では、2007年秋より開始した新サービス「ウィンザープラス」のITインフラに、日立エコロジーサーバ「HA8000-esシリーズ」を全面採用した。金融サービスに欠かせない高い性能・信頼性を確保すると同時に、サーバの消費電力低減やデータセンターの設置スペース削減なども実現。これからの企業に不可欠な、エコロジー対応への取り組みにも役立っている。



フジフューチャーズ株式会社
システム業務部 システム開発課 課長
白澤 考啓氏

顧客の投資活動をサポートする 多彩な金融サービスを展開

「貯蓄から投資へ」の流れを受けて、消費者の資産運用ニーズも一段と多様化。これに応えるべく、新たな金融商品／サービスが次々と生まれている。商品先物取引サービスを手がけるフジフューチャーズでも、顧客の投資活動をサポートする多彩なサービスを展開している。

「金融サービス業においては、お客さまに提供する情報やコンテンツそのものがビジネスを支える生命線。それだけに、システムの安全性・信頼性確保には細心の注意を払っています」と白澤氏。

万一システムに障害が発生した場合は、顧客の投資活動に大きな影響が及ぶだけに、サービスの安定稼働や迅速な障害復旧に全力で取り組んでいる。

また、もう一つの重要なテーマが、サービスメニューの強化である。同社ではオンライントレードサービス「ヴィーナス」の提供を1998年に開始するなど、業界に先駆けて先端的な取り組みを行ってきた。

「投資スタイルはお客さまによってさまざまですので、今後も新たなチャネルやサービスをタイムリーにご提供していきたい。それによって、お客さまとWin-Winの関係が築ければと

思います」と白澤氏は語る。

新サービス「ウィンザープラス」に 省電力の「HA8000-esシリーズ」を採用

こうした中で生まれてきたのが、2007年秋に開始された新サービス「ウィンザープラス」である。

このサービスでは、顧客一人ひとりに専門のアドバイザーが付き、取引に関する相談やアドバイスなどが受けられるほか、投資家自身がパソコンや携帯端末などを利用して情報分析を行ったり、相場をリアルタイムに見ながら売買を行うことも可能だ。いわば、営業社員との対面取引と、オンライントレードの両方の良さを組み合わせたサービスなのだ。

「自分で自由に売買できるヴィーナスが便利という方もいらっしゃいますが、対面の方が安心できるとか、アドバイスが欲しいという方もいらっしゃいます。こうしたニーズにお応えするのがウィンザープラスです。ネット経由で出金もできるので、口座を財布代わりに気軽にお使いいただくことも可能です」（白澤氏）。

このウィンザープラスのシステム構築を担当したのが、株式会社 スリーエイ・システム（以下、スリーエイ・システム）だ。

「なるべく電源の総容量を減らしたかったため、できるだけ消費電力の少ないサーバ



株式会社 スリーエイ・システム
課長
大杉 正樹氏

USER PROFILE

フジフューチャーズ株式会社
www.2211.jp

本社 東京都中央区新川1-16-3
設立 1963年9月16日
資本金 22億1,000万円
従業員数 338名 (2007年8月1日現在)
商品取引受託業務、商品ファンド販売、金地金販売などの事業を展開。オンライン先物取引サービス「ウィンズ」や対面取引とネットの長所を融合させた「ウィンザープラス」も提供。



「ウィンザープラス」の詳細は下記URLへ。
www.2211.jp

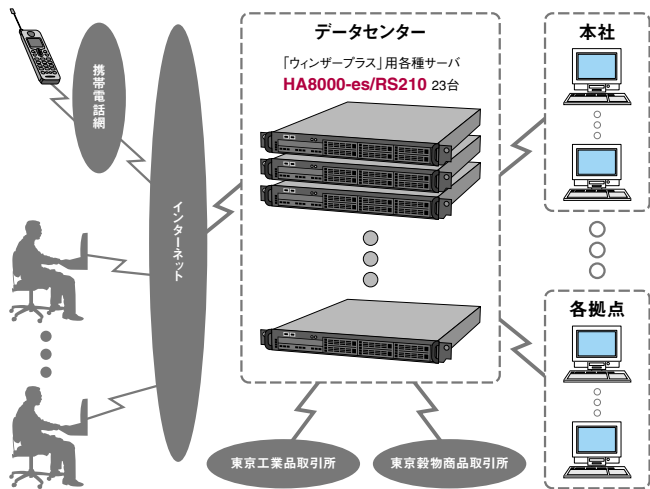
PARTNER PROFILE

株式会社 スリーエイ・システム
www.aaa-system.co.jp

本社 大分県大分市生石4-1-20
設立 1970年8月
資本金 3,000万円
従業員数 200名
独立系システムインテグレータとして、ソフトウェア開発、システム・コンサルテーション、アウトソーシング、技術要員派遣などの事業を展開。さまざまな商品先物取引会社や金融機関のシステムを担当。



フジフューチャーズ(株)の「ウィンザープラス」システム概要



製品を導入したいと考えました」と大杉氏は構築時の要件を説明する。

データセンターの中には、ラックあたりの電源容量が決まっているところも多く、上限を超えてしまった場合は、たとえスペースに空きがあっても複数のラックに機器を分散しなければならない。今回はスリーエイ・システムの自社センターへの設置だったため、それほど条件が厳しいわけではなかったが、ラックへの収納効率を高めるためにも省電力性の高いサーバが望ましかった。

そこで選ばれたのが、日立エコロジーサーバ「HA8000-esシリーズ」である。HA8000-esシリーズは、省電力タイプのプロセッサやハードディスクを採用。また、ファンの回転数をサーバ内の温度に応じて制御する機能など、データセンターの省エネ対策に役立つ機能を数多く搭載している。この結果、同等モデルと比較して、約20%もの低消費電力化を実現。まさに今回のシステムにピッタリのサーバだったのだ。

23台のサーバを1ラックに集約
ラックの発熱量も大幅に低下

検討段階においては、他ベンダーとの比較・検討も行ったという。しかし同社では、これまでの導入経験を通じて日立グループの総合力を高く評価している。製品だけでなく導入後の

サポートを考えると、HA8000-esシリーズを選ぶのがベストとの結論に達した。

現在では23台のHA8000-es/RS210が導入され、ウィンザープラスのサービスを確実に支えている。導入メリットとしては、まずシステムをコンパクトに集積できた点が挙げられる。サーバ群の総消費電力を低く抑えられるため、ラックに搭載するUPSの数を削減することが可能に。この結果、すべての機器を1ラックに集約することができた。

「省電力タイプでないサーバだと、機器群を2ラックに分けないといけないところでした。データセンターへのロケーションコストを下げられたのは大きなメリットです」(白澤氏)。

また、サーバから排出される熱についても、他のサーバとはまったく違っているとのこと。

「サーバラックの後ろを歩くと、HA8000-es/RS210を設置してあるエリアだけあきらかに発熱量が低い。こんなに差があるのかと驚いたほどです」と大杉氏は語る。

サーバの品質に対しても、高い評価が寄せられている。

「以前導入した他社サーバでは、障害が起きた経験があり、このため今回もある程度の障害は覚悟していました。しかし、HA8000-es/RS210は23台も導入したにも関わらず、初期トラブルもなく安定稼働しており、今後も安心して使えそうです」と大杉氏は続ける。

地球環境に配慮したITインフラで
多彩な金融サービスを展開

商品先物取引業界では、現在サービス提供時間の拡大に向けた取り組みが進められている。2009年5月には、東京工業取引所が午後11時まで取引時間を延長。将来的には24時間取引の実現を目指すとしている。

「もちろん当社でも、こうした動きに対応して、システムの増強や24時間稼働を図っていきます。信頼性・安定性・拡張性に優れたHA8000-esシリーズなら十分に対応が可能だと考えています」(白澤氏)。

「またHA8000-esシリーズの採用には、もう一つ大きな意義があります。現代の企業には、地球環境問題への対応という社会的責任が課せられています。その点、省電力性に優れたHA8000-esシリーズなら、地球環境に配慮したITインフラを実現できます。そうした面でも、良い買い物だったと思います」と白澤氏は語る。

「今後はデータセンターの環境対応を図りたいというニーズが一段と増えてくることでしょう。さまざまな企業にサービスを提供する我々としても、HA8000-esシリーズを積極的に活用していきたい」と大杉氏は評価する。

今後も新たな金融サービスを展開していくフジフューチャーズ。HA8000-esシリーズが活用される場面も、さらに広がっていくだろう。

●本システムは、株式会社日立システム九州が、提案・構築から保守にいたるまで担当しています。

日立エコロジーサーバ

HA8000-esシリーズ

* 同等モデルのHA8000との比較。
●記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

お問い合わせ 株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部
TEL.03-5471-3270 FAX.03-5471-3271 www.hitachi.co.jp/ha8000/